

令和6年度きみの地域づくり学校座学編第5回実施報告

【日時】2024年9月28日（土）、29日（日）

【場所】美里の湯 かじか荘

【参加者】受講生29人（社会人11人、大学生・大学院生17人、高校生1人）、

スタッフ10人、運営協議会会員4人、その他（町議会議員等）3人

計46人

【内容】テーマ：「関係人口と地域おこし協力隊」

≪第13講≫

「田園回帰時代の農山村再生」

講師：法政大学 教授 関司 直也 氏



講義内容

田園回帰と農山村地域が注目されてきている背景と小商いや新事業が継続的に生み出されてきた先発地域の事例をお話しいただき、農山村再生のプロセスや地域との関わり方等、農村での創業や地域づくりに携わるにあたってのヒントを与えていただいた講義でした。

受講生の感想（抜粋）

- ・地域への関わりステップで、まずは地域の人とのつながりや関係を築くことが大事なのだと意識しておこうと思った（行政職員）
- ・「地域のためにはがんばれない、自分の目の前のことをやることで地域が良くなるのではないか」の部分、感心しました（大学生）
- ・五城目の女性たちの自分の興味のあることをシェアできる、実現のための後押しができるという地域でゆるやかに仕事をおこす方法であればいろいろな地域でも受け入れられやすいと感じた（大学生）

≪第14講≫

「キャリアデザインと起業」

講師：和歌山大学アントレプレナーシップデザインセンター 講師 田代 優秋 氏

講義内容

起業の事業内容ではなく、人生の選択としての起業に着目し、起業の決心にあたっての判断材料を色々と提供いただきました。また、ワークを交えながら和気あいあいとした講義になりました。



受講生の感想（抜粋）

- ・人生のライフプランにしっかりと落としこみ、内発的動機を明確化することで自己への理解度が高まり、結果的に漠然とした不安が残る起業へのハードルが少し下がるのかなと感じました（大学生）

- ・まず自分が何をやって行きたいのか知るために、地元地域のことを知りたい、目指す理想的な活動をしている人を見つけ話しを聞いてみたいという思いが強くなりました。(大学生)
- ・グループワークを通して、様々な価値観の人がいるということを実感し、多様な考えに触れることも自分にとってはまだ不足しており、大切なことであると思った(大学生)



《第 15 講》

「多業田舎暮らしとゲストハウスの運営」

講師：Cafe & Guest House きみの さいか亭 代表 水島 千絵 氏

講義内容

地方移住の決断から地域おこし協力隊を経て、起業されるまでの経緯について、丁寧に振り返りながらお話いただきました。ゲストハウスとカフェの運営、お弁当販売に加え、農繁期には農業アルバイト等、複数の仕事を組み合わせる「多業」の暮らし方について知ることができました。



受講生の感想（抜粋）

- ・地域にとけこむという点でも、多業という点でも、協力隊として理想の形ではないかと思っています（地域おこし協力隊）
- ・「どのような暮らしがしたい」が最も難しいというテーマの取捨選択については、自分自身がこれからの将来どうありたいかなどを考えてみるきっかけになりました（行政職員）
- ・多業暮らしをされている水島さんに感心すると同時に、自分もそのような暮らしを体験してみたいという興味も湧きました（大学生）

【事務局（担当：藤井）より】

今回の 3 講義では、自分の好きなことから小さくビジネスを始めることについて、小さなビジネスが多数生まれる地域の事例や、起業を決心する際の判断基準、実際に多業で暮らす方のライフスタイルといった多角的な視点から学ぶことができました。起業へのハードルが下がったとの感想もあり、起業への考え方やマインドが変化するきっかけとなった方も多いようです。また、「きみの地域づくり学校」としては初めてグループワークを交えた講義を実施し、様々な価値観に触れられたことが受講生から好評でした。